

継続は力なり

飯島樹里

私は典型的な三日坊主です。スポーツを始めても一年以内に、日記を書き始めても三日も続かず、元旦の抱負も一月末には忘れています。そんな私が唯一続けているのは、四歳から十三年間通い続けているミネソタ日本語補習授業校です。この学校は、ミネソタに住む日本人の子供達が母国語である日本語を学ぶため、毎週土曜日に通う学校です。

私は現在、十七歳の高校二年生です。両親は日本人ですが、日本語が話せて当たり前前の環境にいる訳ではありません。私はアメリカで生まれ育ちました。一度も日本に住んだ事がなく、夏休みに祖父母に会いに日本を訪れるくらいですが、幸いな事に、補習校へ通っているおかげで大人相手の日常会話に不自由しない日本語能力が身につきました。先日、現地校の友達から今まで考えた事もない質問をされました。「日本語がよく話せて書けるのに、なぜ日本語学校にまた通っているの？」

「こう聞かれた時、正直どう答えればいいのか戸惑い、答えを返せませんでした。結局、友達は、私が補習校に通い続けるのは必要ないと思ったよ
うで、日本語を習い続ける大切さを分かってもらえず、悔しかったです。私自身の経験で、学び続ける大切さを痛感した事があります。

中学部に上がった途端、漢字も増え、数学もこれまでの算数とは異なりました。クラスメイトは全員日本からの転入生で、授業についていけない私とは反対にスラスラと勉強が出来ました。私は頻繁に自分とクラスメイトの日本語のレベルを比べ、自分の未熟さがとても恥ずかしく、補習校に通い続ける自信を失くし、行き詰まっていました。これほど補習校をやめたいと思った事はありませんでした。

ある日、母に「授業についていけないし、宿題も難しいから補習校をやめたい」と率直に伝えました。最初、母は頑なにやめさせてくれませんでした。そのうち「中学部を卒業したらやめていいよ」と言うようになりました。この母の言葉で

語が上達したと言っても過言ではないでしょう。
容易にやめていたら、今まで励ましてくれた両親
と私の努力が水の泡になったでしょう。日本語を
学び続ける事が、私の日本人としてのアイデンティ
ティを確認する事でもあるのです。
世界中で暮らす日本人の子供達が日本語を習う
事に、「楽しさ」を覚えるのには時間がかかります。
す。やめたい、と思ってもあきらめてはいけません。
ん。私が日本語を学ぶ重要性を深く理解出来たの
は高校に入ってからで、それまでは理解を深める
ための準備段階だったといえるでしょう。「継続
は力なり」というように、何事も続けなくては結
果が出ないのだと、私はこの経験で学ぶことが出
来ました。
今度、もし誰かに現地校の友達と同じ質問をさ
れたら、今の私は胸を張ってこう答えます。「補
習校に通い続けるのは、日本語が大好きで、日本
人としての誇りがある限り、日本語を学び続けたい
」と。